カーリング入門解説2018年度版

**カーリングをやってみよう！**

　冬季オリンピックで一躍人気が高まったカーリングですが、簡単なようで難しい競技です。カーリングを体験する前に、カーリングについて学んでおきましょう。

　最初にカーリングのメンバー構成や用具の名称、試合のルールを解説します。

●**メンバー構成**

カーリングは5人の構成でチームが組まれます。役割のそれぞれに、「リード」「セカンド」「サード」「スキップ」「リザーブ（フィフス）」という名称が付いています。実際の競技は「リード」「セカンド」「サード」「スキップ」の4人で行いますが、交代要員として「リザーブ（フィフス）」が登録されています。

**〇各役割**

・リード：最初に投げる人。

・セカンド：2番目に投げる人。

・サード：3番目に投げる人。スキップが投げるときは、指示を出す。

・スキップ：4番目に投げる人。作戦を組み立て、氷を読み、指示を出す。

・リザーブ（フィフス）：補欠選手。大会規定によっては、1チーム5人で登録し、1人がリザーブになる。

●用具の名称

ストーンは、氷の上を滑らせるやかんのような形をした石です。重さ約20Kg、直径約30㎝で、花崗岩系の岩石でできています。上部には、投げるときに持つプラスティック製のハンドルがあります。試合では、赤と黄色のように2色のハンドルのストーンを使い、どちらのチームのストーンかが見分けられるよういなっています。

ブラシ（ブルームともいいます）は氷の上をゴシゴシとこするデッキブラシのような形状になっています。氷をこすることで、ストーンの方向や速度を調節します。この氷をこすることを「スウィーピング」といいます。

そのほか、カーリング用のシューズがあります。ストーンを投げるときは足を滑らせますが、踏み切る足のほうは滑りにくくなっていて、左右で異なる素材でできています。

●エリアとハウス

カーリングを行う細長いコートのようなエリアは、長さ役45ｍ、幅5ｍで、これを「シート」といいます。

シートの両側にはストーンで投げ入れるハウス（円）が描かれています。ハウスは、4つの円が描かれていて、外枠から12ft（約3.66ｍ）、8ft（約2.44ｍ）、4ft（約1.22ｍ）、中央の円が1ft（約30cm）のサイズです。中央の円をButton（ボタン）といいます。

●試合の進め方と所要時間

試合の方法について紹介します。約40ｍ先に描かれたハウスの中に、ストーンを投げ入れて点数を競うもので、4人対4人の2チーム対抗で争います。

〇試合の進め方とルール

1チーム4人、2チームで合計8人が試合に参加します。8人全員が2回ずつストーンを投げて、合計16投で1回が終わります。カーリングでは、回のことを「エンド」といい、1試合は10エンド（公式試合以外では8エンドの場合もあります）繰り返して行います。

投げるときは、ホッグラインとバックラインの間にストーンがくるようにします。ホッグラインとは、ハウスの中心を横切るティーラインの手前6.401ｍの位置に引かれたラインのことです。バックラインは、ハウスの後ろにあるラインのことです。ホッグラインを超えない場合、あるいはバックラインを超えた場合、そのストーンは失格となります。

〇先攻後攻

各エンドで「先攻」と「後攻」があります。試合のスタート時に、各チームのサードがじゃんけん（またはコイントス）をして勝ったほうが、1エンド目の攻撃を選ぶ権利、またはストーンの色を選ぶ権利を得ることができます。通常は、攻撃の「後攻」を選び、試合を有利に進めることができます。

〇ポジションの役割

カーリングでは、投げる場所を指示する人が決められています。